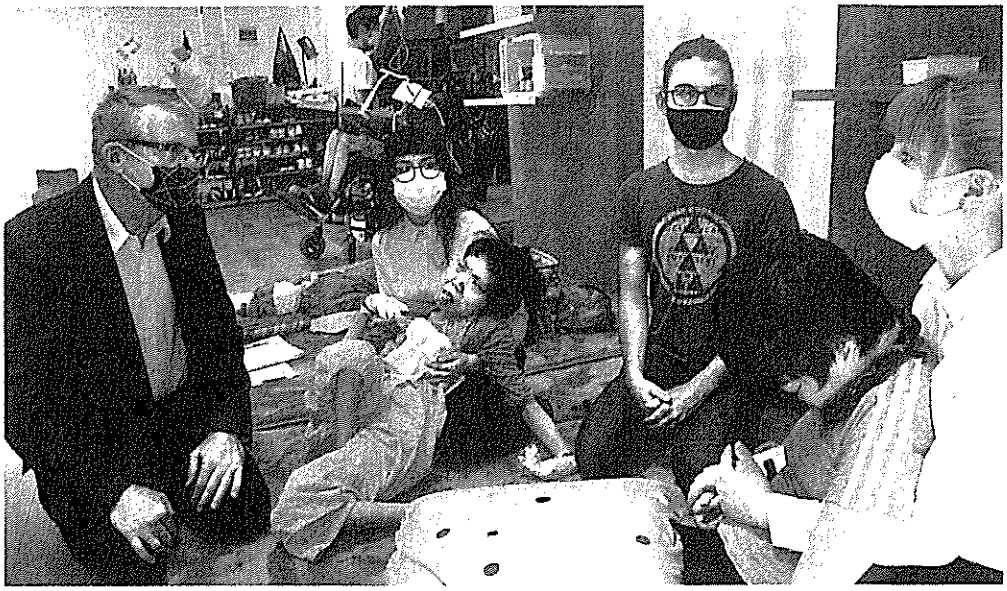
総領事 独の若者3人激励

西成 施設でのボランティア視察



施設でボランティア活動をするドイツ人の若者を激励するエバーツ総領事（左、大阪市で）

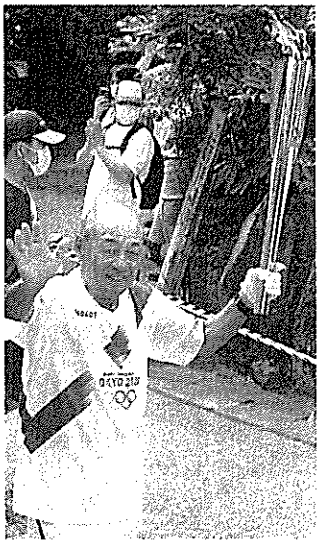
在大阪・神戸ドイツ総領事館のマルティン・エバーツ総領事が23日、社会福祉法人「ゆうのゆう」（大阪市西成区）を訪れ、コロナ禍で、ボランティア活動に励むドイツの若者3人を激励した。エバーツ総領事は施設を利用する障害者を熱心に介護する姿に感銘を受け、日独の施設交流にも協力していく考えを示した。

3人は、ボランティアなどを希望する若者を世界50か国以上に派遣するドイツの「国際青少年社会奉仕会」の仲介で、昨年11月に来日。重症心身障害者が利用する同施設で8月まで活動する。

エバーツ総領事は、来日の経緯や施設の基本理念、日々の活動について、3人や施設側に熱心に質問。これに対し、施設の男性職員は「ドイツからのボランティアの受け入れはこの20年で約60人に上る。彼らとの交流は、利用者にとって異文化と触れる大切な機会となり、我々職員にとっても良い刺激になっている」と説明した。

その後、活動の様子を見学したエバーツ総領事は「ボランティアとして愛情を持って利用者と向き合う姿に感動した。残り期間も充実した毎日を過ごしてほしい」と話し、シュレーゲル・アンナさん(24)は「日本のスタッフに温かく迎えられ、大阪が大好きになった。最後まで精いっぱいお世話をしたい」と笑顔で話していた。

聖火便り　25日静岡・伊豆市



富士山登頂2000回以上

実川 欣伸（よしのぶ） さん 77

これまで富士山に2000回以上登頂した「鉄人」だ。その経験から「諦めなければ何でもできることを伝えたい」という思いを胸に聖火をつないだ。

沼津市在住。登り始めたのは、42歳の頃で、会社の外国人研修生を連れて行くうち、頂上からの風景の美しさに魅了された。

日本一の山に挑戦するほかの登山者との出会いも財産だ。車いすの女性や、東日本大震災で被災した高校生たちをガイドした。悪天候の中を必死に登り、頂上で号泣する姿を見ると、心が動かされた。

新型コロナウイルスの影響で、昨年は登山道が閉鎖された。体力の衰えを感じる中で、富士山の登頂が実は当たり前ではないことに気付いた。「77歳で挑戦する姿は、誰かに勇気を与えるはず」と考え、新型コロナで延期になったリレーを無事に走れるよう、毎日1万歩近く歩いた。

沿道の歓声を受け、「登山は孤独な戦いだが、今日はたくさん声援をもらえた」と笑った。今回の経験を更なる活力にし、次の挑戦へと再び走り出した。

◇

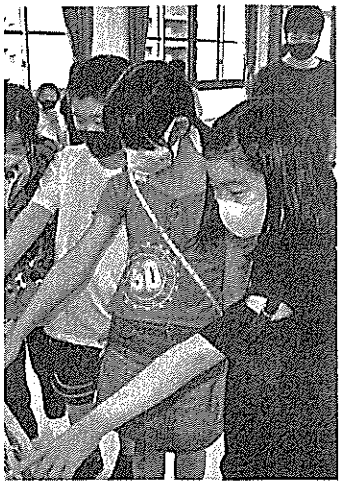
25日の聖火リレーは静岡県の御殿場市や伊豆の国市など8市町で行われました。

スーパー 余剰食材提供

門学校生の長男の新型コロナウイルスへの感染が判明。毎月の家賃に、息子が

覧台で勉強してね

区・小松小に寄贈



寄贈された閲覧台で新聞を読む児童ら（大阪市東淀川区で）

☺迫真のカットをお手元に 新聞掲載写真

☎06-7732-1182

こども支援寄金
読売光と愛の事業団
06・6366・1851

▽2万5000円　府内、高倉正達さん。児童養護施設の生徒対象の郡司ひさる奨学基金へ▽500円　堺市中区、匿名（寄付は郵便振替で00930・1・243380、読売光と愛の事業団大阪支部へ）

えっ!こんな高値で!まずはお電話を